

リンロン®テープ 巻き方 その2

テープ巻きはクマ剥ぎやニホンジカの角擦り等の剥皮害を防護するとして 1990 年代より採用されてきた工法です。リンロン®テープは 2004 年に発売以来、テープ巻き工法の生分解タイプとして各地で採用されてきました。

テープ巻き工法は、各地で多様な巻き方がありそれぞれに防獣効果を上げている。ここに代表的なものを紹介したい



テープがゆらゆらたなびく巻き方

I. テープはしっかり巻き締める。



↑ 上部

↓ 地際



テープは、およそ 5 年(±2 年)で生分解し一部が残るだけの状態になります。そのため樹皮へのくい込みは心配ありません。テープの脱落防止のため、そしてクマが剥皮行動をとっても物理的に剥皮できないようにしっかり巻き結びます。

II. 上下の端部を約 50cm 垂らす



端部を垂らすことによりテープが風でたなびく。また、テープがたなびくことで若干の摩擦音が発生する。

害獣に対して視覚的、聴覚的に警戒感を与え、防獣効果をさらに向上させます。

ただし、忌避効果は 1~2 年で害獣の慣れもあり効果はなくなる模様です。

III. 5 cm~10 cm 間隔でらせん状に巻く

テープ脱落防止のため 5cm~10cm 間隔でらせん状に巻く。クマは、地際からおよそ 10 cm 位の上部から剥皮を始めます。テープをしっかりらせん状に巻きつけ物理的に剥皮できないようにします。



心理的な効果と物理的な防除で、クマに剥皮をあきらめさせることが重要です。